

努力賞

完ぺきな人はいない

荒川区立赤土小学校三年

鈴木 大翔

やなぎ田先生こんにちは。ぼくは、『教室はまちがうところだ。』という本を読み聞かせてもらいました。

初めに、この題名を見ました。この題名は、いったいどういう意味なのだろうと、ふしぎな気持ちになりました。やなぎ田先生が小学生、中学生、高校生、大学生の時、まちがいをしたらどういう気持ちになりましたか？ぼくは、はずかしくてたまらない気持ちになります。りゆうは、まちがいをしたら、わらわれるかもしれない、とてもくやしと思うからです。

でも、この本を読んで、さいしょから完ぺきな人はぜったいいないと思いました。大人だってまちがえるのに、ぼくたち、子どもがまちがえないわけがありません。

だから、勇気を出して、手をあげよう！まちがってわらわれても、くじけるな！まちがえても大じょうぶ！と、自分をはげしました。

それに、まちがえても、ほかの人が答えを出してくれるかのうせいもある。みんながわからなくても大じょうぶ。だって、先生がいるんだもん。先生に教えてもらって、それをおぼえればいい。

まちがえても、どんどん手をあげて、まちがいの中から答えをみちびき出していけばいいということ、この本は、ぼくに教えてくれました。

ぼくは、あきらめないで、一生けん命に考える

ことが、一番大切だと思います。

完ぺきな人は、いないのです。まちがってもしけずに、勇気を出して手をあげる教室、そんな教室を作ろう！と、ぼくは思います。